

JSTのオススメ！特許技術

～JST知財活用支援事業 選りすぐりの特許53選！

環境・エネルギー分野、 情報通信分野

JSTは、環境・エネルギー分野で593件、情報通信分野で227件のライセンス可能な特許技術を保有しています。^{※1} また、内訳は以下の構成となっています。

^{※1}・・・2025年5月現在

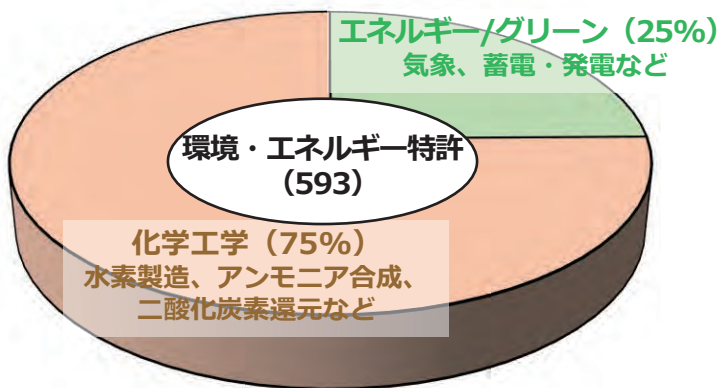


図. 環境・エネルギー関連特許ポートフォリオ

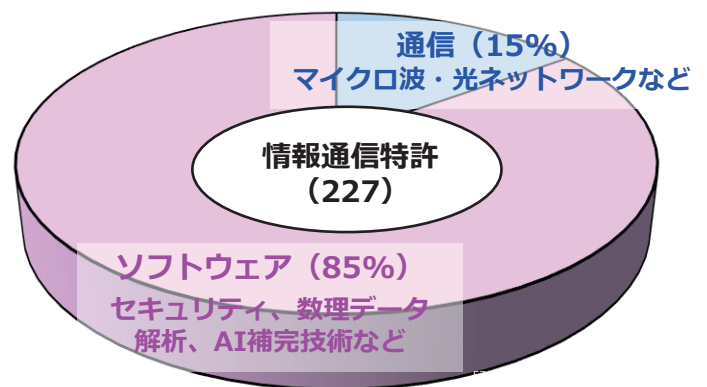


図. 情報通信関連特許ポートフォリオ

流線構造のトポロジー表現(TFDA)

～流れの「かたち」を「ことば」に！～

発明の背景・ポイント

二次元流れの流線のパターンを、数学（幾何学）の一分野であるトポロジーを使って分類し、それぞれに固有の文字列表現を割り当てる手法を世界で初めて開発しました。これによって以下のようなことができるようになりました。
”「ながれ」を「ことば」に！”～これが私たちの技術の合言葉です。

- （新しいデータ解析手法）流れに関わる分野の大量の流れのパターン画像に固有の文字列を割り当てます。
- （流れの経験知の顕在化）流れに関する「経験知」を、誰もが理解できる「言葉」として抽出します。
- （新しい開発基盤）この文字列により各分野での新しいデータ解析の革新基盤とすることができます。

発明の概要

本発明はどのようなデータに使えるのでしょうか？

流体方程式のシミュレーションで得られた流線（粒子の軌道でも大丈夫です）のデータや、様々な流体実験の可視化技術で、しばしば得られる「二次元の流線データ（パターン）」に適用できます。また、三次元流れの二次元断面として得られる流れ画像にも適用できるケースもあります。

本発明でどのようなことができるのでしょうか？

二次元流線データに対して、その流れのパターンをトポロジカルに区別する固有の文字列が割り当てられます。文字列の違いで微妙な流れパターンの違いが完全に区別できます。これによって以下のことができるようになります。

- （1）文字列の「並び方」が特定の機能を表すことなどがわかるようになります（流れの“DNA”情報として）
- （2）文字列の統計処理により特徴的な性質を抜き出せます。（流れに関する経験知の抽出）
- （3）将来起こりえる変化をあらかじめ予測することができるようになります。（流れパターンの将来予測）

文字化は簡単にできるのでしょうか？

数学理論の詳細がわからなくても、変換ルールの仕組みは簡単ですので、そのルールがわかれば流れの文字化は比較的簡単にできます。また、大量の流線データに一括適用できるよう、自動文字化プログラムを開発しました。

従来技術との比較・優位性

従来技術では見えなかった情報により画像診断／認知の確実性の向上、変化の確実な予測が可能になります。

	流れ状態探索の範囲	計算の確度	画像認識の自動化	流れの幾何学情報の抽出
従来技術	× 局所的な探索	△ ガイドラインのない繰り返し探索。	× 経験と勘によって最適状態を探索したり、状態を区別する。	× 存在しない
本技術	○ 漏れの無い網羅的な探索が可能	○ 語表現を通したガイドラインに沿った確実な探索が可能。	○ 普遍的な表現による表現、標準化可能。	○ これまでに見えなかった流れ情報の抽出が可能。

想定される用途

（1）流体機械設計の指針として

トポロジー情報をベースに、最適状態の新しい特徴付けと探索が可能になり、従来の設計指針で解決できなかった諸問題に対して、解決の道筋につながります。

（2）画像診断や状態記述の新しい指針として

流れのパターンの違いが文字列として表現されます。それを用いた診断や機能評価に新しい手法を提供。

（3）あらゆる分野の設計への適用可能性

エネルギーロスの少ない低騒音ブレード、鉄道パンタグラフ、自動車のトランスミッション、河川・港湾の改修。

研究者情報・ライセンス可能な特許情報

※お問い合わせはP.4掲載の「お問合せ先」まで！

発明者 坂上貴之
京都大学

横山知郎
埼玉大学

特許
情報

名称 有限型の流れパターンの語表現装置、語表現方法、プログラム、構造物形状の学習方法および構造物設計方法

国際公開番号 WO 2021/019883

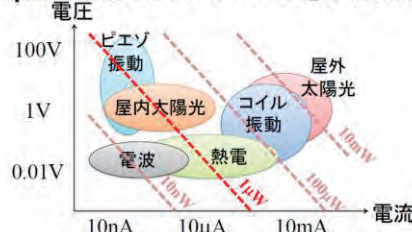
IoTデバイス向け超低消費電力回路技術

～ナノワットニューロン回路、電源制御回路～

発明の背景・ポイント

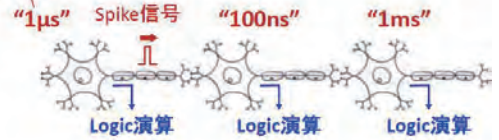
スタンドアロン動作が基本となるIoTエッジデバイスで必須となる**環境発電**における**電子制御**を対象に、無駄な動作を極限まで排除した**超低消費電力回路技術**

「1 μ Wでも動くエッジデバイス」が理想的



電池交換無しに、どこにどのように設置してもデバイスが動作するようにしたい

制御に必要な時定数
(待ち時間)

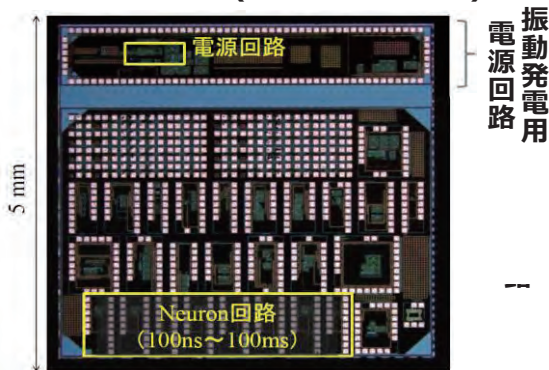


必要な時に必要な場所だけ動作
(神経回路からヒントを得た「ニューロン回路」)

発明の概要

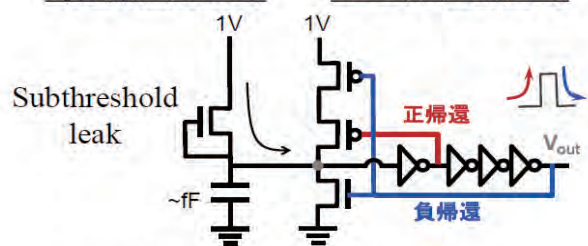
・“待つ”を可能にするナノワットニューロン回路（時定数生成回路+スパイク生成回路）

試作チップ例（180 nmプロセス）

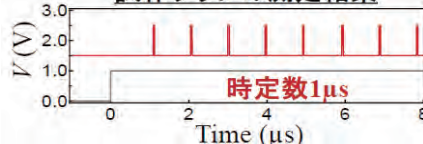


時定数生成回路

スパイク生成回路



試作チップの測定結果



100ns-100msの
任意の時定数を実現

超低消費電力 電源制御技術：インピーダンスマッチング、コールドスタートスイッチ、ハイサイドスイッチ

従来技術との比較・優位性

【従来制御の課題を克服し、デジタルの簡便性とアナログの無駄の無さを両立】

- 従来制御の課題
- ・デジタル：同期動作の冗長性のために、極限までの低消費電力化が困難
 - ・アナログ：同期動作の冗長性は避けられるが、設計が煩雑

想定される用途

◎ IoTデバイス用途

例：自動車内に後付できるガジェットデバイス
微弱な電波を電源とするエレクトロニクスセンシング
(街中や遺跡など景観を乱したくない場所、ウェアラブルに近い場所(ヘルメット、自転車等)、配線できない/しづらい場所、配線も電池使用も不可な体内で微弱電力を利用する場合) 等

研究者情報・ライセンス可能な特許情報

※お問い合わせはP.4掲載の「お問合せ先」まで！

発明者 矢嶋 越彬
九州大学・准教授

特許
情報

名称 - 国際公開番号

- ◎ スパイキングニューロン回路システムおよびスパイキングニューロン回路 - WO2023/276707
- ◎ スイッチ回路および電源回路 - WO2022/210273
- ◎ スイッチ回路および電源回路 - WO2022/202609
- ◎ 電力変換回路、半導体装置および電子機器 - WO2021/241622
- ◎ スパイク生成回路、情報処理回路、電力変換回路、検出器および電子回路 - WO2020/175209
- ◎ ニューロン回路、システムおよびスイッチ回路 - WO2018/100790

プラスチックを肥料に変えるリサイクル技術

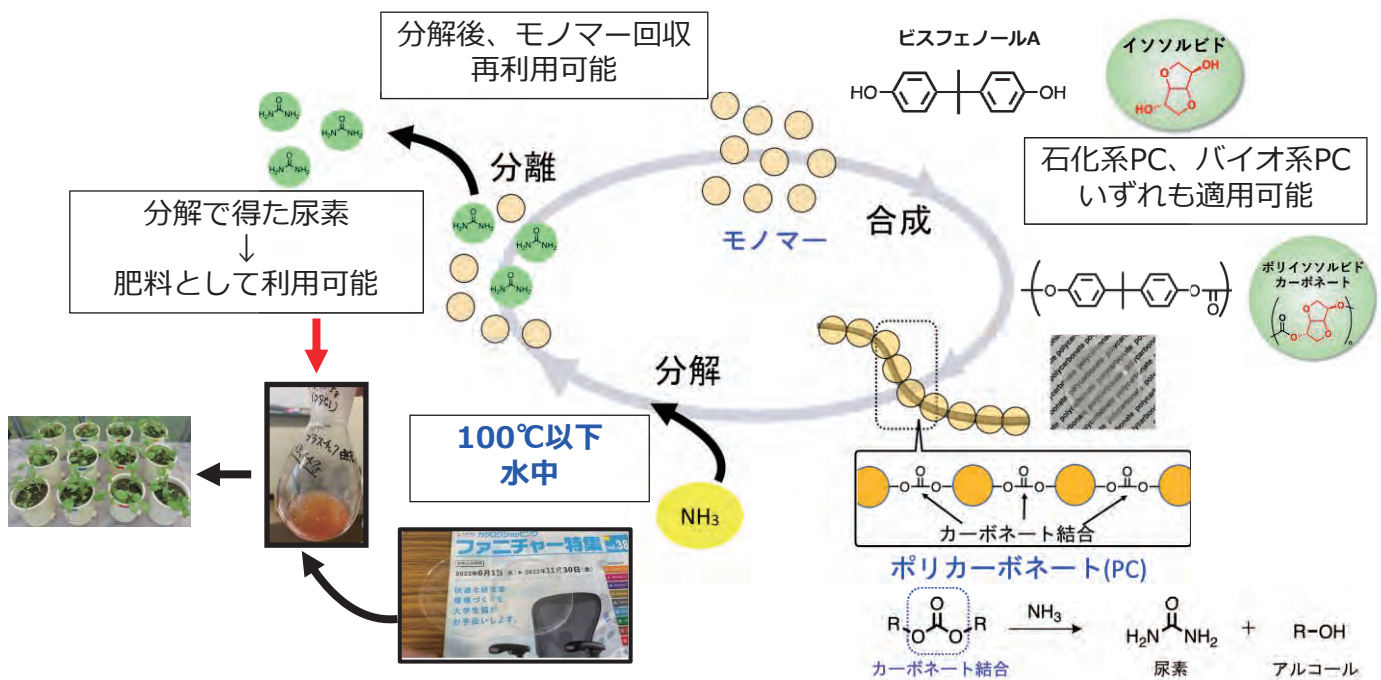
～ポリカーボネート樹脂のケミカルリサイクルプロセス～

発明の背景・ポイント

・ポリカーボネート樹脂のカーボネート結合を、アンモニアと反応させて、尿素に変換する。

- ✓アンモニアとの反応で、尿素と原料モノマー（ビスフェノールA、イソソルビド等）に分解
- ✓尿素を含む成分はそのまま肥料として利用可能
- ✓ポリカ原料は、再度原料としてリサイクル使用可能

発明の概要



従来技術との比較・優位性

エネルギー、環境負荷、コストの各面で有利なプロセス

- | | |
|----------------|--------------------------|
| ・水溶媒反応 | ：有機溶媒不使用 |
| ・アンモニアを用いた分解 | ：アンモニア以外の反応剤、触媒不使用 |
| ・100℃以下で反応 | ：高温加熱、加圧不要。エネルギー及び設備コスト低 |
| ・ポリカーボネート類のみ反応 | ：他のポリマーが混在しても問題なし |
| ・生成物は原料モノマーと尿素 | ：選択性高。副生成物が非常に少ない |

⇔ [従来のポリマーやプラスチックの分解/リサイクル方法の課題]

通常100℃以上の高温や加圧条件下で実施、貴金属触媒要、副生物生成、選択性低等

想定される用途

◎ポリカーボネート樹脂のリサイクルシステムの構築

石油化学由来、バイオ由来ともにポリカ樹脂廃棄物の回収、再利用
原料モノマーの再利用、循環プロセス構築

◎尿素/肥料原料としての廃ポリカーボネート樹脂利用

肥料に用いる新たな窒素源としての利用

研究者情報・ライセンス可能な特許情報

※お問い合わせはP.4掲載の「お問合せ先」まで！

発明者 **青木 大輔**
千葉大学工学部 准教授

特許
情報
名称
出願番号

尿素の製造方法、肥料組成物の製造方法、再生カーボネート樹脂の
製造方法及びリサイクル方法
特願2022-134403

熱電変換材料とそれを有する熱電変換装置

～室温環境においても感度が高いデバイスを発明～

発明の背景・ポイント

ゼーベック係数を1.97 mV/Kまで増加させた熱電変換材料と、それを有する熱電変換装置に関する発明

温度に応じて分子を捕捉したり放出したりするホスト分子と、温度により分子の構造が変化することで起電力を起こす材料とを組み合わせ、熱電変換材料の特性を向上

発明の概要

・超分子化学を用いた新しい熱化学電池

(酸化還元活物質と相互作用するホスト化合物を添加してゼーベック係数を向上)

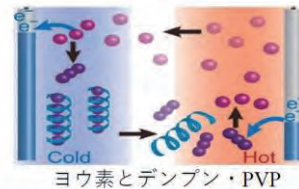
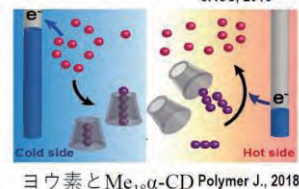
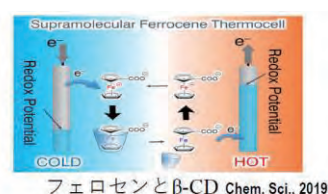
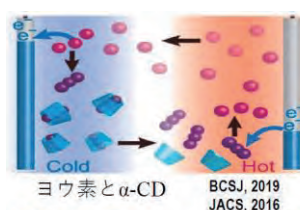
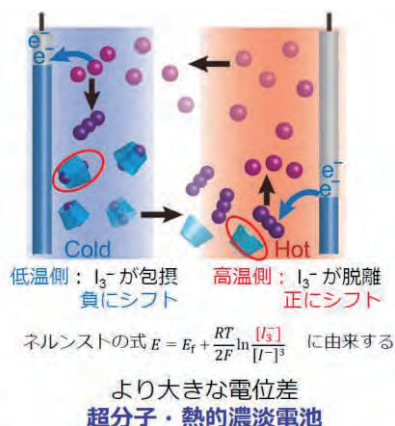
酸化還元活物質の一方(例 I_3^-)を選択的に包摂するホスト化合物(例 α -シクロデキストリン)を添加

→ 低温側で酸化還元活物質の一方を選択的に包摂し、電気化学的に不活性化

例 $3 I^- \rightarrow I_3^- + 2 e^-$ (酸化反応促進)

→ 高温側では脱包摂することにより電位のシフトは起こらず、全体として起電力が向上する。

例 $I_3^- + 2 e^- \rightarrow 3 I^-$ (還元反応はあまり邪魔されない)



従来技術との比較・優位性

【従来技術の課題解決により、フレキシブルな熱電変換素子を実現】

1. 半導体熱電変換素子

- ・単セル起電力が低く、集積化が必要なため、低品位排熱(100℃程度)に対して広く利用されるには至っていない
- ・ペルチェ素子応用も期待されるが、フレキシビリティや、BiやTeの希少性と毒性の問題がある。

2. 熱化学電池

ゼーベック係数は1 mV/Kを超え、単セル起電力が高いため、低品位排熱回収に向けた新熱電変換素子として注目される。しかし、ゼーベック係数向上に向けて、僅かな温度差で酸化還元活性を変化させる技術は、溶媒の種類を変えたり、溶媒を混ぜたりするという手法に頼っており、性能向上に限界がある(最高値 1.43 mV/K)。

例: I^- および I_3^- を用いた場合、以下の反応のみ

低温側: $3 I^- \rightarrow I_3^- + 2 e^-$ (エンタルピー的に有利な方向)

高温側: $I_3^- + 2 e^- \rightarrow 3 I^-$ (エントロピー的に有利な方向)

想定される用途

◎ウェアラブルデバイス・ウェアラブルセンサ向け電源ユニット

◎低品位排熱利用デバイス(フレキシブル・無害な冷却素子等)

研究者情報・ライセンス可能な特許情報

※お問い合わせはP.4掲載の「お問合せ先」まで！

発明者 山田鉄兵
東京大学・教授

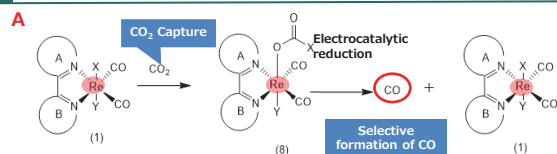
特許情報 名称 熱電変換材料とそれを有する熱電変換装置、熱化学電池及び熱電センサー
国際公開番号 WO2017155046

CO₂をトラップする電気化学有機金属錯体 ～ CCU (Carbon Capture and Utilization) ～

発明の背景・ポイント

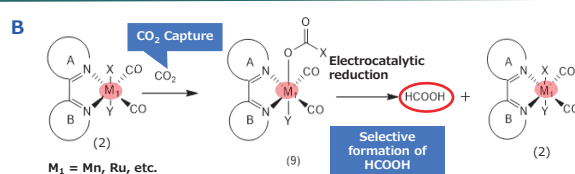
脱炭素社会を目指す上で、火力発電所やゴミ焼却場から排出されるCO₂を削減する取組みが重要になってきています。しかし、燃焼ガス中に含まれるCO₂の濃度は低い（多くても数十%）ため、アミンやMOF、フィルターなどによるCO₂補足方法ではCO₂濃縮という余分なプロセスが必要になります。当電気触媒は、CO₂濃度が低い状況下においてもCO₂の捕捉と還元を同時に行うことができ、燃焼ガス中のCO₂が低濃度であっても効率的に除去することができる技術です。

発明の概要



A. Re錯体電極触媒

- 電気化学的還元により選択的にCOが得られます。
- 低濃度CO₂ (0.03%～100%) から効率よくCO₂を回収できます。
- 加圧は必要ありません。



B. 金属 (M₁) 錯体電極触媒 (M₁ = Mn、Ruなど)

- 電気化学的還元により選択的にHCOOHが得られます。
- 低濃度CO₂ (0.03%～100%) から効率よくCO₂を回収できます。
- 加圧は必要ありません。

実験結果

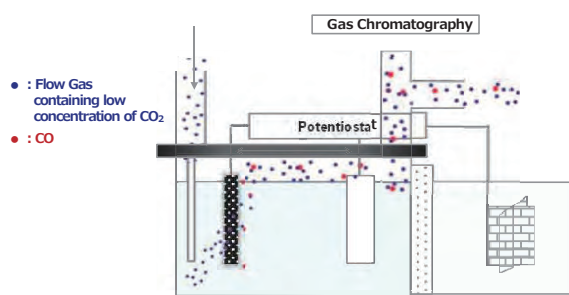
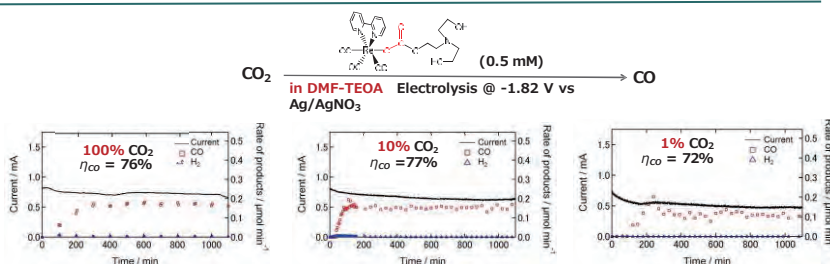


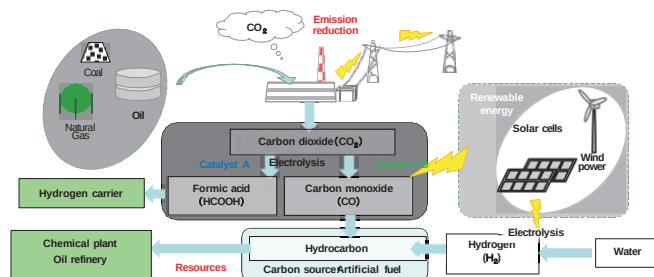
図4.低濃度CO₂用電気化学セル



Re錯体触媒によってCO₂捕捉活性を向上することができます。CO₂の効率的かつ選択的な生成は、1%CO₂下でも進行し、1%CO₂下でのガス還元効率η_{CO}は、100%CO₂下とほぼ同等との結果が得られました。

想定される用途

- ◎ 当電極触媒によって、低濃度のCO₂雰囲気中で、CO₂をCO、又はHCOOHに変換することが可能になります
- ◎ 得られたCOは、鉄鋼業やC₁化学の分野で利用できます
- ◎ 得られたHCOOHは、燃料電池の燃料などへ利用できます



研究者情報・ライセンス可能な特許情報

※お問い合わせはP.4掲載の「お問合せ先」まで！

発明者 石谷 治
広島大学・特任教授

特許情報 名称
特許番号

二酸化炭素の電気化学的還元
特許第6615175号

ACナノポア流体デバイス

～微生物簡易検知センサー～

発明の背景・ポイント

交流ナノポア法(ACナノポア法)は、ユニバーサルに様々な微生物を計測可能で、高速・高精度、小型で現場計測に適した技術である。本研究では微生物サイズの断面(数100nm～数 μm)で長さが数10 μm 以上のストロー型ナノポアの作製技術を確認し、AC測定の特徴を生かす広帯域でのインピーダンス測定能を生かした微生物センシングを実現する。さらに清掃現場での評価から、現場性能に磨きをかける。これらの開発によってACナノポア法の基盤技術を確認しつつ微生物同定能を高度化し、住環境における微生物センシングおよび業務清掃における衛生状態のオンデマンド計測サービスへの展開を図る。

発明の概要

1分子ソーターの実現!!

1分子を検出

1分子を操作

分離

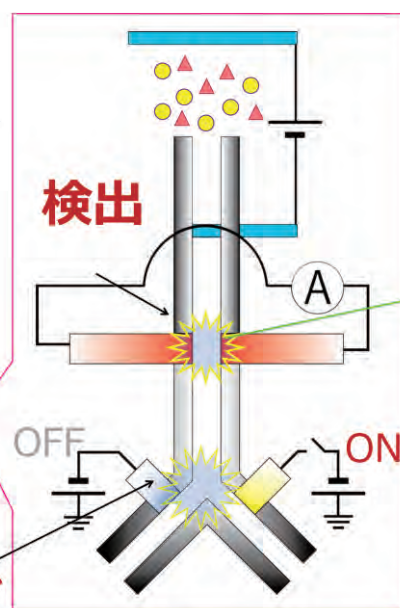
・ナノ流路

- 1分子が1列に並んで流れる
- 1分子の逐次処理

・電気的検出&操作

- 超小型化&エレクトロニクスとのマッチング

スイッチング



直流測定

交流測定

導電率

誘電率→周波数応答

分子内部の局所的な分極の
総和
分子の立体構造に由来

構造の違いを検出！
大きさは同じでもOK

従来技術との比較・優位性

従来の手法

確率的な相互作用により分離

- × 確率過程: 100%の精度や分解能は実現不可能
- × 分解能を上げる→長い分離長が必要→小型化に向かない
- × 多量のサンプルが必要
- × サンプル毎に分離条件の最適化が必要

本手法

1分子プロセスで分離

- ◎ 確定的プロセス: 100%の精度や分解能が可能!!
- ◎ 分解能とサイズは無関係→超小型化可能!!
- ◎ 極微量・極微細サンプルOK→e.g. 原理的に細胞1個でOK
- ◎ サンプル毎の条件出し不要



直流測定

導電率

交流測定

導電率

誘電率→周波数応答
立体構造の違いを検出

× 見分け困難

サイズ

◎ 構造から見分け可能

× 電気分解しやすい

電極反応

◎ 電気分解しにくい
完全に防ぐことも可能

× サンプルとキャリアイオンの
区別が付きにくい

キャリアイオン

◎ 影響を受けにくい
周波数応答で移動度から区別

想定される用途

- ◎ 特定空間、排水・下水中、土壌中の微生物の測定・検知
- ◎ 乳酸菌等微生物を含む製造物、製造工程中の品質管理

研究者情報・ライセンス可能な特許情報

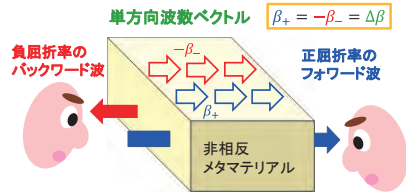
※お問い合わせはP.4掲載の「お問合せ先」まで！

発明者 山本 貴富喜
東京科学大学

特許情報 名称 流路デバイス及びそれを含むサンプル処理装置
国際公開番号 WO2011/67961

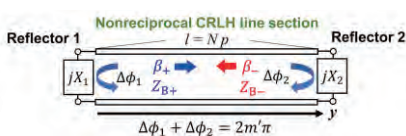
非相反メタマテリアルによる 漏れ波ビーム走査アンテナ

発明の背景・ポイント



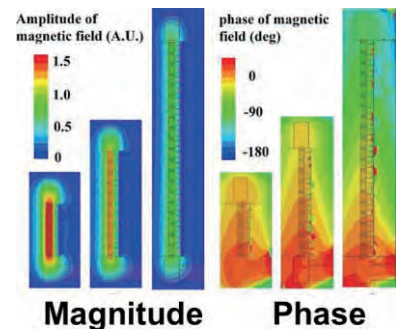
【非相反メタマテリアル線路】

メタマテリアル+非相反性の組み合わせにより、伝送電力の向きに関係なく、波数ベクトルが同じ向きになるため、電波の漏れ波放射の方向も同じになる。



【擬似進行波共振器】

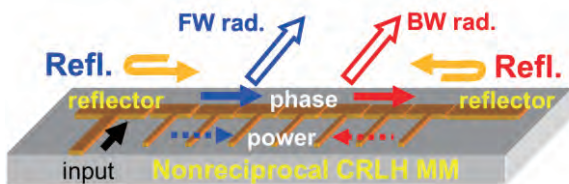
非相反メタマテリアルを用いると、共振周波数を固定したまま、共振器サイズを自由に設定できる進行波共振器が構成可。界分布の位相勾配は非相反性により決定され、動的に制御可能



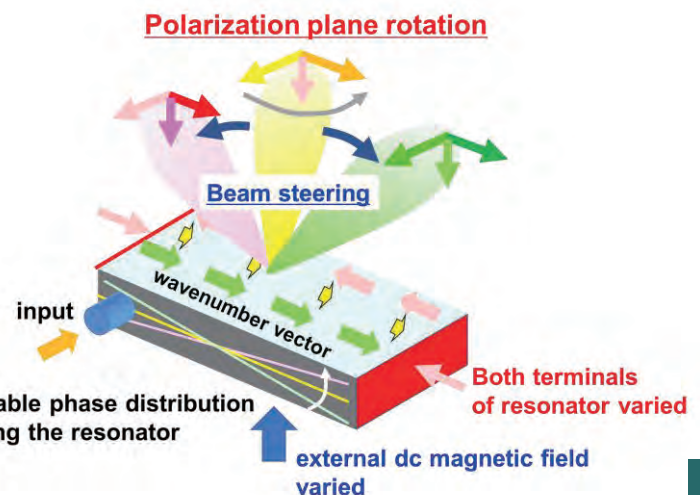
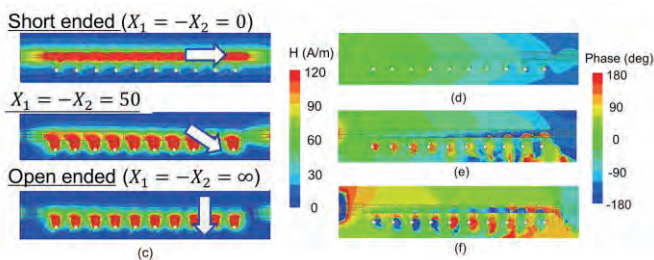
発明の概要

【擬似進行波共振アンテナとその特徴】

- ・入力電力を漏れ波放射に再利用できる共振構造のため、高効率放射
- ・放射ビーム方向の周波数依存性(ビームスクイント)が低い



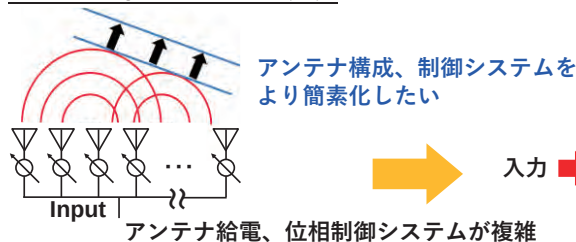
共振器両端の反射位相を変化させるだけで共振器内の電磁界（電流）分布を動的に変化可能



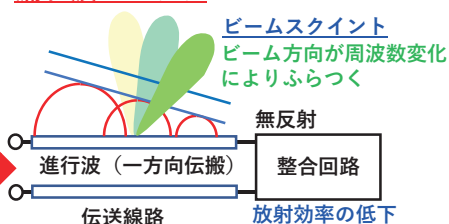
ビーム走査と偏波面回転機能を兼ね備えた漏れ波アンテナ

従来技術との比較・優位性

フェーズドアレーアンテナ



漏れ波アンテナ



想定される用途

- ◎ 衝突防止用レーダー（ドローン、警備用ロボット、車載、自動運搬車）
- ◎ 無線通信（無線LAN）

研究者情報・ライセンス可能な特許情報

※お問い合わせはP.4掲載の「お問合せ先」まで！

発明者 上田 哲也
京都工芸繊維大学

特許情報 名称 特許番号

伝送線路マイクロ波装置
特許5234667、特許5877193他

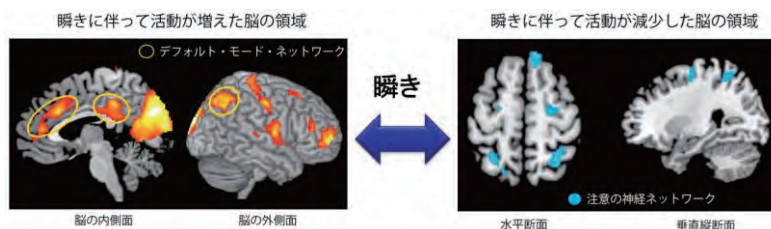
瞬き同期度に基づく関心率推定と適切な情報提示

～人と人、人とロボットの相互認知を促進～

発明の背景・ポイント

瞬きは分節化の手がかりとして、また表現ツールとしても利用できます。

さがけ[社会情報基盤] 社会と調和した情報基盤技術の構築のなかで、「ヒトの瞬き」の役割を脳科学的に解明し、Webカメラ等から取得することが比較的容易な瞬き情報を、情報サービスやコミュニケーションロボットの付加価値向上に活用する可能性を見出しました。

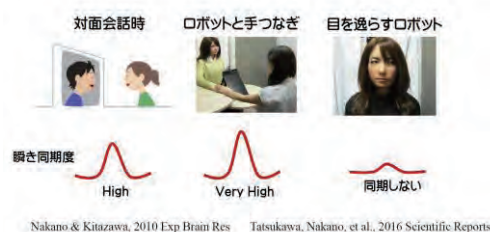


発明の概要

二者間の瞬きの同期度を測定することにより、コミュニケーションの質を評価したり、集団の瞬きの同期度を測定することにより、講義やセミナーなどへの関心度を評価したりすることが可能になります。

参加者の瞬き情報を収集して講師へ参加者の関心度の測定値をフィードバックする機能をオンラインミーティングのシステムに組み込むなど、「瞬き」研究の第一人者である中野先生の知見を活用し、コミュニケーションやメンタルヘルスに関する社会課題全般にソリューションを提供する事業を展開すること考えられます。

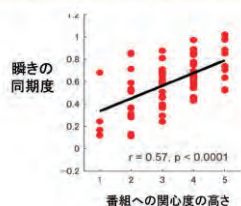
他者の心を掴んでいるか、瞬きでわかる!?



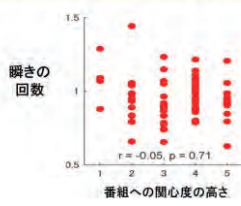
Nakano & Kitazawa, 2010 Exp Brain Res Tatsukawa, Nakano, et al., 2016 Scientific Reports

実験結果

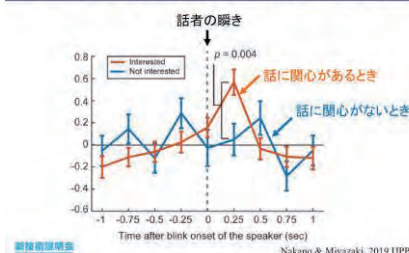
瞬きの同期度は関心度の高さと高い相関



瞬きの回数は関心度と無相関



話題に関心があると話者の瞬きと同期



Nakano & Miyazaki, 2019 DPP

想定される用途

瞬き同期を用いてコミュニケーションを向上

①相手の話題への興味評価

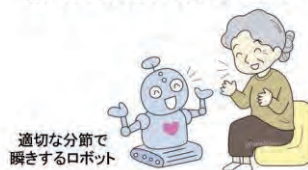


②教師の講義力・販売員の説得力の評価



瞬き同期を用いてコミュニケーションを向上

③共感型介護ロボットの開発



研究者情報・ライセンス可能な特許情報

※お問い合わせはP.4掲載の「お問合せ先」まで！

発明者 中野 珠実
大阪大学
脳情報通信融合研究センター
教授

特許情報① 名称
特許番号
特許情報② 名称
特許番号

処理装置、処理方法、及びプログラム

特許第7023504号

データ処理装置、データ処理システム、データ処理方法、及びプログラム
特許第7185892号

粗い予測値を使って精密な制御をする技術

～予測ガバナ～

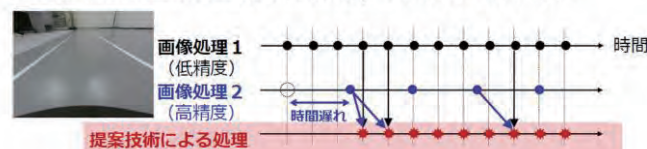
発明の背景・ポイント

システム制御を実現するにあたり、必要な情報をリアルタイムに取得しようとする予測（推定）した精度が低い、一方、高い予測（推定）精度を得ようとするリアルタイムには取れない、というトレードオフの課題があります。

当特許はこの課題を解決する技術です。

自動車のレーンキープ制御 ⇒ 白線の位置から経路を予測
白線検出の精度とリアルタイム性にトレードオフがある

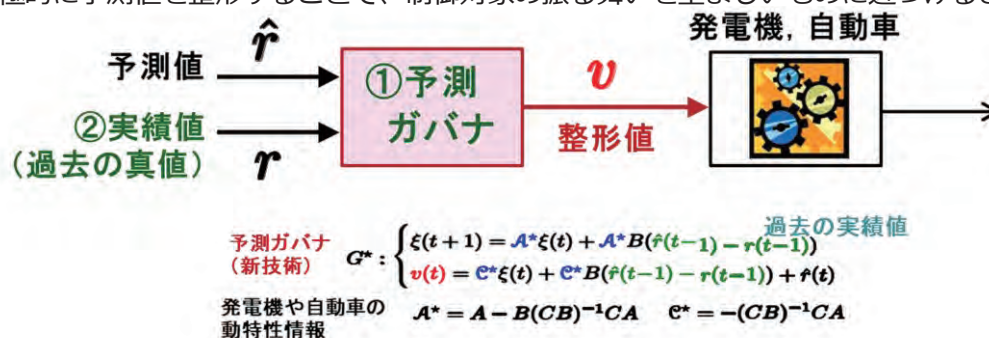
- ・画像処理1はリアルタイムであるが、白線検出精度が低い
- ・画像処理2は白線検出精度は高いが、リアルタイムでない



発明の概要

「予測ガバナ」

予測値を用いて制御対象を制御する際、予測の粗さが制御対象の振る舞いに影響を与えます。本技術は予測値をそのまま用いるのではなく、①制御対象の動特性、②過去の実績情報を考慮し、積極的に予測値を整形することで、制御対象の振る舞いを望ましいものに近づけるといいます。



実験結果

電力システムや自動運転システムなどでは、AI予測技術を利用して意思決定・制御に必要な情報を予測します。しかし、現実には完全な予測はできず、間違っこともあります。

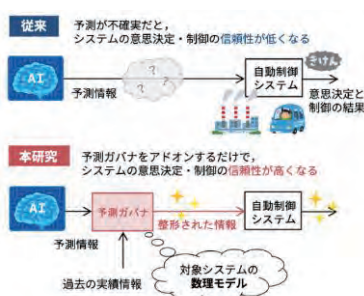


図1 従来システムの問題点と提案技術の利用方法

電力システムの需給バランス制御のシミュレーションを行い、制御の精度が約55%向上することを確認しました。

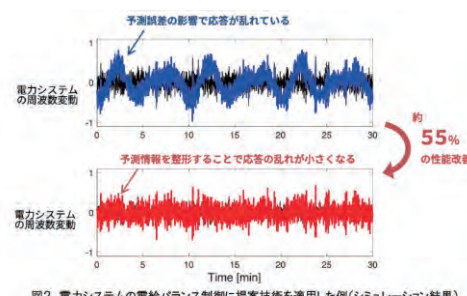


図2 電力システムの需給バランス制御に提案技術を活用した例（シミュレーション結果）
（周波数変動が小さい方が電力システムの信頼性が高い）

想定される用途

- ◎ **自動運転分野** : 自動運転実現においては周辺環境の予測が必要であるが、不確かな環境下において、実時間での精度の良い予測は困難→提案技術により予測値を補正することで運転性能が向上
- ◎ **電力分野** : 需要量予測値に発電機の特性を考慮した補正を考慮することで性能向上
- ◎ **医療分野** : インスリンの投薬制御では採血が患者に大きな負担を与える。非侵襲型センサを利用した血糖値予測があるが予測誤差が投薬の精度に影響を与える→提案技術により、予測誤差による影響を最小化、精度向上

研究者情報・ライセンス可能な特許情報

※お問い合わせはP.4掲載の「お問合せ先」まで！

発明者 南 裕樹
兵庫県立大学・教授

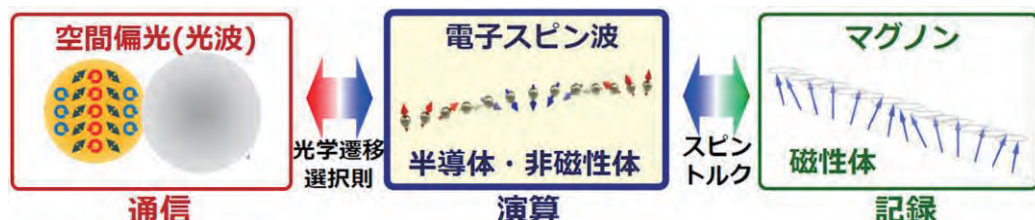
特許情報 名称 予測値整形システム、制御システム、予測値整形方法、制御方法、及び予測値整形プログラム
特許番号 特許第6632538号

電子スピン波を用いた多重並列情報処理技術

～世の中の電力消費量増大を解決～

発明の背景・ポイント

情報の重ね合わせが可能な「波」の性質を有する電子スピン波*を活用した演算システム。
通信システムとは光学遷移選択則、記録システムはスピントルクを介してシームレスに接続可能。

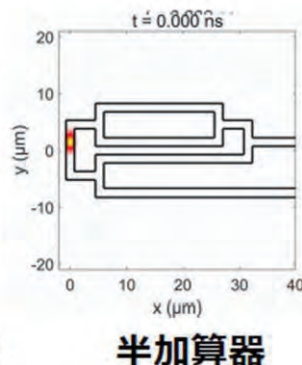
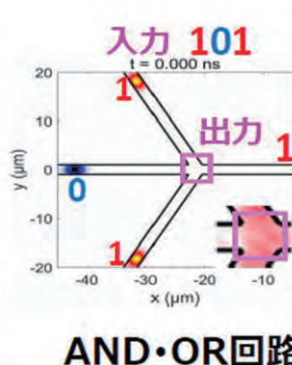
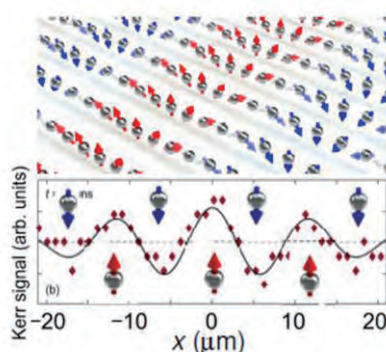


* 伝導電子スピンと軌道運動間に働くスピン軌道相互作用が作る有効磁場を利用した永久スピン旋回状態は演算に利用可能な寿命を有する。

発明の概要

電子が散乱されてもスピンは一斉回転し、長距離離輸送可能。

1次元細線構造の分岐と合流時の多数決論理により、各種論理回路を容易に実現可能。

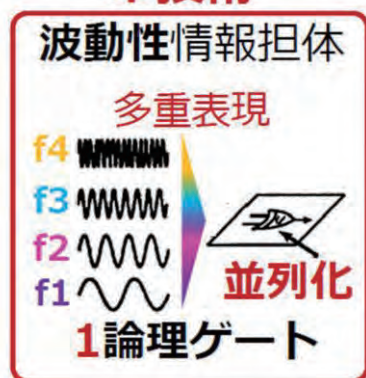


従来技術との比較・優位性

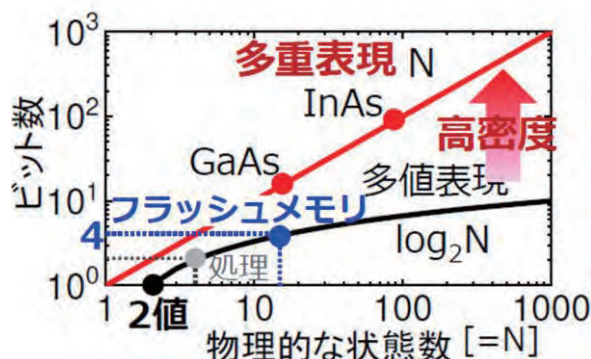
デジタル信号処理



本技術



「波」を使った並列演算により、膨大な情報量を小型・低消費電力で処理可。



想定される用途

◎波の性質を共有し、通信・演算・記録をシームレスに接続した小型・低電力情報処理伝送基盤

研究者情報・ライセンス可能な特許情報

※お問い合わせはP.4掲載の「お問合せ先」まで！

発明者 好田 誠
東北大学

特許情報① 名称 論理演算素子、論理デバイス、NOT論理デバイス、切替可能NOT論理デバイス、XOR論理デバイス、AND論理デバイス、OR論理デバイスおよび半加算器
国際公開番号 WO2025/013500

特許情報② 名称 多数決論理デバイス、光電変換デバイス、光通信論理デバイスおよび多数決論理デバイスの制御方法
国際公開番号 WO2024/043234

JST知財活用支援事業のご紹介

大学等の研究成果に係る知的財産権を必要に応じて譲り受けること等により集約及び管理し国内外で活用を図る知財集約、研究成果の権利化の促進、大学知財マネジメント力の強化、大学等の技術移転活動を担う人材の育成、技術移転相談、新技術説明会、大学見本市の開催、知的財産の早期活用を図るためのスーパーハイウェイ並びに開発あっせん及び実施許諾等を実施しています。

大学等における知財マネジメントの取組、技術移転および産学連携活動を総合的に支援することにより、イノベーション創出に寄与することを目指します。

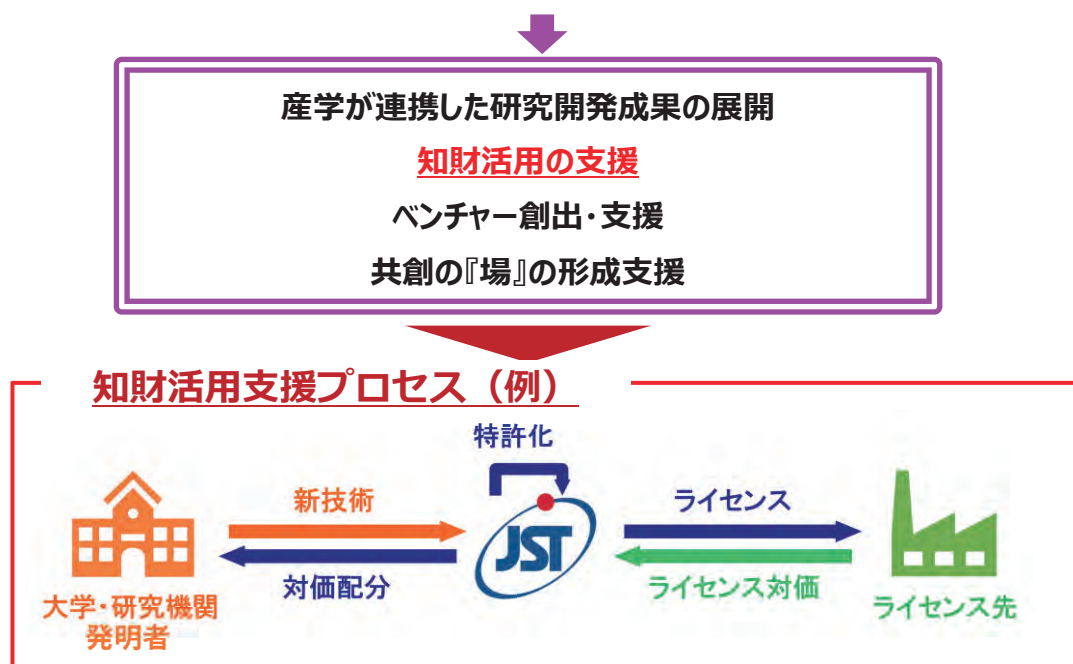
JST知財集約・活用グループの役割と主な活動

役割

- ・ 日本の大学や研究機関で発明された技術を基に、日本だけでなく海外（米国、欧州、中国など）にも特許出願し、技術を保護
- ・ JSTの保有特許は約2,500件
- ・ ライセンス等、特許の活用を通じて発明技術の社会実装を推進

主な活動

- ・ 社会変革に資する研究開発による新たな価値創造の推進



ライセンス可能特許リストについて

本書にて約2,500件のJST保有特許から53件の「オススメ特許」を掲載していますが、本書未掲載特許も、JST知財活用のホームページでいつでもご参照いただけます。本書掲載特許はもちろん、JST保有特許にご関心をお持ちの際はお気軽にお問い合わせください。

約2,500件！
JST保有特許リストは
こちら

[https://www.jst.go.jp/
chizai/patent.html](https://www.jst.go.jp/chizai/patent.html)



お問合せ先

〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
国立研究開発法人科学技術振興機構 知的財産マネジメント推進部 知財集約・活用グループ

TEL : 03-5214-8486 / FAX : 03-5214-8417

E-mail: license@jst.go.jp URL : www.jst.go.jp/chizai/